

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。 (※夏季休業期間の変更に伴う教育課程編成の工夫を含む)	B	めざす学校像「一人一人が輝く活気と潤いのある学校」の具現化として、校長の経営方針の下、今年度目標を連鎖させて、教科指導、学級・学年経営、校務分掌等、全教職員で組織的に取り組んだ。特色ある学校づくりとして、「栽培活動」に取り組み、全校生徒による花の種まき、落ち葉拾い、委員会活動による学級花壇整備、保護者協力によるPTA花壇整備、除草作業等、通年で実施した。毎週、生徒指導、教育相談、運営委員会を行い、情報連携から、各分掌、担当教諭が共通理解の下、組織として機能するよう運営している。	B	生徒用、保護者用アンケート集計の結果は教育目標に向けて取り組んでいる成果であり素晴らしいと思う。様々な取組は多くの事象で確認でき、その努力を感じる。生徒と保護者、学校の協力の下、伝統的栽培活動に取り組んでいる。学校全体で栽培活動に取り組んでいて素晴らしい。いつも整備された花壇に感心している。落ち葉拾いもよい活動である。中庭の状況を見る限りにおいて、やや情熱が冷めてきていると感じるところがあったり、大雨の影響で植えた花が流れてしまうなどの課題もあるが、引き続き恵まれた教育環境の維持を期待している。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B	転落事故防止として、2・3階教室窓の閉閉制限を施した。心肺蘇生法、エビベン等アレルギー対応の校内研修を実施した。避難訓練は消防員による総合訓練を新たに取り入れた。危機管理マニュアル配付、保護者連携の通学路点検、メールによる不審者情報配信を実施した。いじめ根絶の取組として、心と生活アンケート、いじめ撲滅サミット、オレンジボンキャンペーン、人権学習、教育相談週間、生徒指導対応教諭を核とした教育相談体制構築等を実施している。	B	心肺蘇生法、エビベン等の校内研修が有用である。立地や近年の災害を加味し、訓練などを通じ子供たちに危険箇所を認識させ自分の身を守るよう育成することが必要である。ホームページ上に危機管理マニュアルが載っており大変わかりやすい。校門からの通路は緊急車両の通行に支障のないよう動線を確保することが大切である。事故、アレルギー対応、いじめの問題などあらゆる面で取り組んでいるが、いじめなどの情報提供や早期発見、未然防止に更なる対策が必要である。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	埼玉県学力・学習状況調査では1年(国数)、2、3年(国数英)すべてで県平均を上回った。全国学力・学習状況調査では、3年(国数英)すべてで県平均、全国平均を上回った。南部地区学力検査(3年国数社理英、年3回)でも概ね良好な結果が得られている。調査結果の分析から、生徒全体としては基礎的・基本的な知識の定着が進んでいる。個々の生徒の伸びに着目し、授業力向上のための研修に取り組んでいる。	B	学力調査を指標にすれば、県平均を上回っているで基礎学力は定着していると考えられる。全体としては良い結果であり基礎学力は身に付けているが、個人差が大きいのでその差を埋められるとよい。授業について、各教科の先生方が工夫を凝らして生徒に向き合っている。子どもたちによく聞き、考えるきっかけを生与えていると思う。数学の少人数指導はよい取組である。学力向上について、現状のスタイルを維持し更なる向上を目指して欲しい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	数学の少人数指導やT.T等、個に応じた指導の充実に取り組んでいる。研究開発学校の指定を受け、主体的、対話的で深い学びの実践を主題とし、授業改善を推進している。資料提示のための大型TV増設、ICT機器活用を進めている。質問教室の実施、学習カードや評価カードの活用など、個々の学びを支援できるよう工夫している。生徒アンケート「授業はわかりやすい」は91.4%、保護者アンケート「生徒の実態に基づいた授業をしている」は76.2%であり、改善の取組を継続する。	B	とても丁寧な指導をされており子どもたちもしっかり学んでいた。各教科の先生方が工夫を凝らして生徒に向き合っている。数学の少人数指導など個に応じた種々の取組がなされている。生徒アンケートでは、「先生方は一生懸命に教えてくれている」の回答が94%であり、授業への熱意がうかがえる。教員の違いがかる差や個々の子どもの意欲の差を埋め、生徒が理解しやすい授業を続けて欲しい。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	委員会、部活動等、生徒が主体となる取組を推進している。朝のあいさつ運動、集会時の無言入退場、清掃時の黙勤、授業評価オール5、行事前の〇日間チャレンジ、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等、生徒に達成感を味わわせ、自尊感情を高められるよう実践している。生徒アンケート「校則などの生活のまきを守る」89.4%、保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いている」90.1%であり、今後も継続的に取り組む。	B	学校内では落ち着いて生活ができており、教員もよく指導している。個々の差を感じるものの規律ある行動、態度は身につけている。来校の際、特に服装の乱れた生徒も見当たらず大きな声であいさつをしていく姿が印象的である。生徒は各委員会や部活動しており、規律を乱す事例は少ないと感じる。登下校時に横一列に並んでいたりと、時に夢中になっている場面もあることから、更なる指導の充実を期待している。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	毎週、運営委員会、生徒指導部会、教育相談部会を行い、情報共有を通じて各学級の生徒の実態を把握している。組織として指導の手立てを検討し、進捗を確認している。毎月生徒指導委員会を開催し、月ごとの各種委員会の活動計画、活動報告を行い、生徒の主体的活動により委員会活動が活性化できるよう工夫している。規律ある態度の育成について、今月の重点目標を校内各所に掲示し、意識高揚を図るとともに、委員会活動を連鎖させ、具体的な改善行動に結びつけている。	B	生徒の実態把握に努め、委員会の開催など工夫が見られる。授業評価オール5等で生徒のモチベーションを高めており、規律を乱す事例は少ないと感じる。生徒の委員会活動など盛んに行われていることはプラス要因であり、マンネリ化しないよう工夫して更なる向上を目指してほしい。個々の先生や教科による違いが出ないよう、実態把握に基づいた教員の共通理解による組織的指導を期待する。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育委員会の活動として昼休みに体育館を開放し、体を動かす機会を確保している。グラウンドでは、上級生、下級生に関わらず多くの生徒が外に出て体を動かしている。各学級にクラスボールを用意しており、それを用いることで、サッカーやバレーボールなど、複数で運動を楽しめるよう工夫をしている。運動部活動は、目的意識を持ち熱心に運動に取り組んでいる。保護者アンケートでは「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」92.6%の回答が得られている。	A	黒目川堤防を走るなど立地条件を十分に生かし、とてもよく取り組んでいて、挨拶もできている。昼休みの時間帯にはどの学年の生徒もみな外で遊んでいるのを見かける。運動部活動は結果として成果も出ており、日頃の活動の賜物である。様々な球技運動に触れ生徒自身も楽しんで取り組んでいる。保護者が集まる機会に、学校側で行っている様々な取組について、生徒たちの様子を含めて聞かせて欲しい。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	新体力テスト種目別上位記録の掲示や体力課題を意識した体育授業の改善など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組んでいる。南部地区中学校体育授業研究会を実施し、長距離走の授業の工夫に取り組んだ。近隣大学と連携し、学生ボランティアを受け入れ、授業補助など指導環境を充実させた。成長期を踏まえた保健指導として、アウスメディアの取組や学校歯科医、歯科衛生士と連携した歯科保健指導、生徒の活動をとり入れた学校保健委員会を実施している。	B	全体的に体力向上を目指し学校はよく取り組んでいる。近隣大学の学生ボランティアを受け入れや体育授業研究会の実施など、授業環境整備に努力している。二中フェスティバルでの部活動体験は素晴らしい。部活動等とても活発で、生徒も教員もとてもよく取り組んでいると思う。部活の適切な活動日数や活動量の調整を継続し、今後も意図的な体力向上の取組を期待している。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	保護者と教師の会各委員会やサポーターの取組など、生徒への直接的な支援や校内環境整備に尽力をいただいている。地域の多くの事業所に協力をいただき、職業体験学習を3日間実施した。地域の人材活用として、学生ボランティア、菊栽培、ジャグリング、部活動外部指導者、二中ソラーン双葉の取組など、多岐にわたり地域の人材を導入している。保護者アンケートでは、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」88.9%であり、教育力向上の取組を推進する。	A	保護者と教師の会の各委員会、サポーターによる講座、校内環境整備など、よく運営、活動している。職業体験や二中ソラーンも地域力が活かされている。地域の事業所の協力を得て実施されている職業体験はとても良い。仕事について考えるだけでなく参加できるのは素晴らしい。二中フェスティバルでは他校との連携に取り組んでいる。保護者や地域の協力を得て教育力向上の取組を推進することが今後も必要である。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	保護者、教員による校外パトロールを2度実施し、通学路の危険箇所の点検、市への要望を行った。地域、学校が一体となりふれあいフェスティバルを開催した。吹奏楽部、二中ソラーン双葉、保護者と教師の会が参加し、サッカー部、柔道部、バスケットボール部が部活動体験を行った。青少年育成の集い、青少年育成啓発キャンペーンに代表生徒が参加、協力した。保護者アンケートでは「保護者や地域は学校と協力して安全指導や健全育成に取り組んでいる」87.9%である。	B	通学路の見回りやふれあいフェスティバル等、学校、保護者、地域と良い連携ができている。校区内ふれあいフェスティバルの開催にあたり担当校に積極的に協力している。青少年育成の集いや青少年育成の啓発運動への参加は心強いと感じる。今以上に学校の教育活動に対する関心を高めることが必要である。保護者や地域が自発的に絡んでいくような方法を模索し、家庭・地域の教育力を生かした子どもたちの指導・育成を期待している。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入  
Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満